

《 訂正のお願い 》

(2025 年 7 月 15 日版)

『必読 官能評価士認定テキスト』に誤りがありました。下記の通り訂正させていただきますとともに、皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

P25 下から 2 行目

誤 B (435.8nm)

正 B (青: 435.8nm)

P36 10 行目

誤 $20\mu\text{Pa}$ を規準とし、

正 $20\mu\text{Pa}$ を基準とし、

P51 10 行目

誤 味の順脳は、

正 味の順応は、

P126 4 行目

になる。 の後ろに下記を追加。

求め方は、以下のとおり (n は標本数、 S は標準偏差)。

P128 (3) 標準誤差 (Standard Error: SE) の冒頭

誤 図 4-10

正 図 4-12

P134 中ほどの例の 1 行目

2 つのサンプルを 11 名で官能評価して得られた評点 の後ろに下記を追加。
(表 4-5 左)

P136 6 行目

例: 2 つのサンプルを 5 人で官能評価して得られた評点 の後ろに下記を追加。
(表 4-5 右)

P152 5 行目

誤 パネル数

正 パネリスト数

P152 8 行目

誤 正解したパネルは 7 名だった。

正 正解したパネリストは 7 名だった。

P153 表 5-1 に続く 2 行目

誤 判定数が限界値より大きい場合は

正 判定数が限界値以上の場合は

P154 中ほど 検定の箇所の 1 行目

誤 判定数が限界値より大きい場合は

正 判定数が限界値以上の場合は

P154 中ほど 検定の箇所の 2～4 行目

誤 1%の限界値は 20 である。正解数 22 名は 1%の限界値よりも大きいので、有位水準 1%で塩分濃度 0.8%の味噌汁の方が好まれたと判定される。

正 1%の限界値は 20、0.1%の限界値は 21 である。好ましいと答えた 22 名は 0.1%の限界値 21 以上なので、有位水準 0.1%で塩分濃度 0.8%の味噌汁の方が好まれたと判定される。

P157 10 行目

誤 判定数が限界値より大きい場合は

正 判定数が限界値以上の場合は

P157 下方 試料の箇所の冒頭

誤 6 種類の緑茶を用意し、

正 7 種類の緑茶を用意し、

P157 図 5-3

系列 1 の右端に

G

 を追加

系列 2 の右端に

キ

 を追加

P 158、P 159、P 160、P161 の該当箇所すべて

誤 パネル

正 パネリスト

P162 表 5-11 の出典

誤 1)

正 3)

P162 上方 表 5-11 の左

誤 表 5-11 の値より小さければ

正 表 5-11 の値以下ならば

p. 165 3 行目

誤 0.05 以下

正 0.05 未満

p. 165 3～4 行目

誤 0.01 以下

正 0.01 未満

p. 170 3 行目

誤 90 人のパネリストを 30 人ずつの

正 120 人のパネリストを 40 人ずつの

P172 4～10 行目（「なお、今回の事例で得（中略）が示された。」に説明が不足していたため下記に差し替え）

Fisher の正確検定は、周辺度数を固定した上で、観測された分割表が得られる確率を超幾何分布より正確に計算するが、超幾何分布形状、群間サイズバランス、観測値が極小値、期待値とのズレなど様々な要素により、p 値の計算結果が、大きく変わることがある。その例として、観測データを、より対立仮説を支持するパターンとして、表 5-7 (D) の事例を紹介する。

ここでは、効果なしのセル値を調味料 A, B 共に 1 にして、あり得る全組み合わせを行い、どのくらいの確率で起こるかを計算する。帰無仮説は、「調味料 A, B のコク改善効果は独立」、対立仮説は、「コクの改善なしは、調味料 B の方

が A より大きい」 となる。その確率の計算値は、右側片側検定の p 値 = 0.569 となり、対立仮説が採択され、表 5-7(A)の場合と、大きく異なった結果となった。

なお、表 5-7 (D) の事例の Pearson カイ 2 乗値検定の p 値 = 0.626 であった。

P187 7～10 行目の該当 4 か所

誤 パネル数

正 パネリスト数

P187 (3) 尺度について の 3 行目

誤 0 普通

正 0 どちらでもない

P193 6 行目

誤 7.2 TDS 法 (Temporal Dominance of Sensation)

正 7.2 TDS 法 (Temporal Dominance of Sensations)

P195 引用文献 2)

誤 1-5

正 53-57

P206 下から 3 行目

誤 そのような距離

正 どのような距離

P207 下から 2 行目

誤 ウォード法よる

正 ウォード法による

P224 下から 9 行目

誤 値とりも小さくなるまで、

正 値よりも小さくなるまで、

P225 上から 9 行目

誤 直行回転では、

正 直交回転では、